

る

どちらやうを、くだの如く切て、葛の粉、玉子を入れ、どちらやうにくるみ、油にてあぐる、これを實にして、汁を仕立るなり、但どちらやう焼て切て後にあぐるがよし、とり合せ物は、午蒡、木のこ、芋

◎越中汁

はひの肉を、かまばこの如く、肉をとりて、たきすりて（めしの取湯に入れてどろへとする）汁へかきたて、入子は、菜を細かにたきて入る

吸物の摺方

◎すまし汁

玉子を茶碗へなりとも、めい／＼につぶし入れ、汁かげんよき時、鍋の中へ玉子一つづゝ入れて、

何にても見合せ一種入子にして、もりて出す

◎どちらやう汁

いせゑび、鹽湯煮にして、身をぬきて、よきほどにさきて、淺草のりを入子にして、すひ口には柚子わざり

西洋の女と日本の女との相違

西洋の女は色が白くて、髪が黃金色で、肉附が好くて、脊が高く、日本の女は色が黄で髪が漆色で瘦せて脊が低い。西洋の女は、後ろに反つて、外輪に大股に歩き、日本の女は前に併んで内輪に小股に歩く。西洋の女は後ろで棲を取り、日本の女は前で棲を取る。西洋の女は能く談じ、日本の女は能く黙す。西洋の女は思ふことを十倍にも表情し、日本の女は思ふことの萬分一も

面へ出さぬ。西洋の女は男と交際し、日本の女は女と交際す。西洋の女は口に「戀」を説き、日本は女は心に「戀」を語る。西洋の女は娘の時よりも、妻になつてからか浮氣になり、日本の女は娘の時が浮氣で妻になると堅くなる。西洋の女は、山に登り、海に泳ぎ、舟を漕ぎ、馬に乗る。凡て室外の遊戯を好めど、日本の女は夫れと反対に、兎角外出が嫌ひ。西洋の女は亭主を使ひ、日本の女は亭主に使はる。西洋の女は剛腹、日本の女は從順。西洋の女は多くの場合に於て「否」と答へ、日本の女は「諾」と答ふ。西洋の女は悍馬の如く、日本の女は羊の如し。西洋の女は目で物を言ひ、日本の女は手で物を言ふ。西洋の女は人前で亭主といちやついて、家に歸てから喧嘩をする、日本の女は人前では他

人行儀にして、家に歸つてからいちやつく。西洋の女は亭主を靴で蹴り、日本の女は亭主の胸倉を取る。西洋の女は表面が不潔のやうで内部が不潔、日本の女は表面が不潔のやうで内部が清潔。西洋の女は男との間が近くで遠く、日本の女は遠くて近い。(中央新聞)

婦人と親族法

太田英隆

第三章 婚姻

第一節 婚姻の性質

婚姻は、人事中最も重大なる事項でありまして親族の根源であります。これは、御婦人方にもごく必要な法律でありますから、第三章は稍詳しく説明をいたしませう。